

-photo-

姉妹都市沖縄県八重瀬町
第1回やえせまつり



出発前に浅上王子宮で



土佐の塔で参拝



真剣なまなざしで



ヤブサイ



勇壮な踊り「エイサー」

みかんが色づく11月18日、香我美町山北では毎年浅上王子宮の秋の大祭が行われ、浦安の舞、棒踊り、獅子舞が奉納されています。
その中でも棒踊りは、約300年間一度も途切れることなく、親から子へ先輩から後輩へ山北地区の青年たちに脈々と受け継がれています。
また、昭和37年には、浅上王子宮の氏子たちによって歴史と伝統ある山北棒踊りを維持・伝承することを目的に保存会が発足。翌年7月には、高知県保護無形文化財に指定されました。

伝統の証

山北棒踊りは、宮の奉納だけではなく、県内はもとより全国あるいは海外にまで活動の場を広げ、伝統芸能を多くの人に知ってもらおうと活躍しています。
平成3年に、イタリアで開催された文化交流イベント「ジャパンフェスティバル」に参加。平成8年には、ニューヨークの名門ホール「カーネギーホール」で開催された「日本の祭典」に、日本の伝統芸能を伝える一員として山北の棒踊りを披露しました。
今年も、2月に東京渋谷NHKホールで開催された「第9回地域伝統芸能まつり」に参加し、10月には、市の姉妹都市である、沖縄県八重瀬町の合併後初めての「第1回やえせまつり」に華を添えました。
遠く離れた地で、棒踊りを披露することは、今に受け継がれてきた伝統の証となり、活動の糧にもなっています。

八重瀬で魅せる

10月10日(土)から11日(日)に開催された「第1回やえせまつり」に23人が参加し伝統文化の交流を行いました。
出発の朝、参加者全員が浅上王子宮に集まり、先輩たちが守り引き継いできた伝統に恥じないよう公演の成功と旅の安全を祈願しました。
沖縄に到着した一行は、高知県出身の戦没者ゆかりの地である具志頭城跡に建立された「土佐の塔」で、献花と参拝を行い、やえせまつりの会場へ。
本番では、白装束に身を固めた青年たちの凛とした踊りに、大きな拍手が沸き上がりました。
来場者からは、「20人の息の合った棒使いは、迫力がありすばらしかった」と賞賛の声が聞かれました。
このやえせまつりでは、「エイサー」や女性の集団舞踊「シーマヤー」などの民俗芸能を継承する団体が30以上も参加しており、棒踊りのメンバーは沖縄文化に感動していました。

山北の棒踊り

題字 阿部翠心書

継承の証



受け継がれる



五穀豊穡を願い、無病息災を祈る人々の生活と心の中に息づいていたお祭りや伝統芸能の奉納。
かつては風習として子々孫々と受け継がれ、人と人、人と自然を繋ぐお宮の確かな存在がありました。
私たちのまちでも、あちらこちらで秋祭りが行われます。
しかし、それら伝統は、変わりゆく時代の中で後継者不足という深刻な問題を抱え、継承に苦悩し途絶えてしまったものもあります。
気がつけば、便利で多様な生活スタイルを選ぶことができる私たちは、昔のように地域の人たちと心を合わせることや、世代を越えた交流を忘れつつあります。
そんな今、お宮を核に地域が一つとなり、伝統芸能を守り継承している姿を紹介します。